◉相模湾湘南片瀬港発↓江ノ島沖

ゲストも多彩な相模湾のヒラメ ライトな竿で駆け引きを楽しむ

本誌APC(東京)／椎名義徳 Yoshinori Shiina

ヒラメといえば冬場がトップシーズンのイメージを持つ人も多いと思うが、相模湾のヒラメ釣りはイワシの群れが沿岸に回遊してくる3月中旬ごろから本格スタートする。

アベレージサイズは1キロ前後。一人1～3枚も釣れれば御の字と、本場である茨城や外房エリアと比べれば数、型ともにおよばぬものの、ここ数年の人気上昇ぶりは目を見張るものがある。

南西の強風でも吹き込まない限り穏やかな海域なので、船に弱い人でも安心して釣りができるのもいいところだ。

ライトヒラメ五目と称している船宿が多いとおり、ゲスト魚も多彩。カサゴ、メバル、マハタ、アカハタ、オオモンハタ、コチ、スズキ、ホウボウなど、どれも釣れてうれしい魚ばかり。

また、船の流し方もスパンカーを立ててのエンジン流しなので、横流し釣りのように仕掛けが浮き上がらないことから使用するオモリも30～50号、すなわちライトタックルで手軽に楽しめることが人気の理由といえよう。

▲相模湾のヒラメは1キロ級がレギュラーサイズ

まるでカツオ釣り

湘南片瀬港の萬司郎丸に出かけたのはゴールデンウイーク前の週末。当日は16名の釣り人が集まり、出船前から船上は大にぎわい。私は撮影に専念すべくカメラのみを抱えて乗船する。

皆さんのタックルを拝見させていただくと大半の人がライトアジで使用する全長2メートル前後のゲームロッドとPE1.5～3号を巻いた小型両軸リールの組み合わせ。そのほか、ヒットすれば面白そうな全長2.4～2.7メートルの軟調メバル竿を使用する人もいた。

使い慣れたタックルでチャレンジできるのもこの釣りのいいところだ。

午前6時半に出船。ゆっくり航行することおよそ15分、江ノ島沖を中心とした水深15～30メートルが主な釣り場になる。

エサは船宿により、最初にサビキ仕掛けで自分でイワシを釣って確保するスタイルと、船宿が事前に調達し船のイケスに用意しておくスタイルがあるが、萬司郎丸の場合は後者で、現在は15～20センチほどのマイワシが用意される。

「すぐに入れられるようにエサを付けておいてください」

旋回が止まったところで、「ハイ、やってみて。水深は20メートルです」

開始2流しはノーフィッシュだったが、型を見たという僚船からの連絡を受け、近くで竿入れさせてもらうと、すぐに右舷トモ2番の小林さんにヒット。0.7キロサイズがタモ取りされる。

回り直すと今度はそのお隣の田中さんにヒット。軟調子の長竿が海面に突き刺さらんばかりに弧を描き、見ている私までもテンションが上がってくる。

上がってきたのは1キロサイズ。お隣の小林さんがタモ入れして無事ゲット。

茨城や外房エリアで主流の横流しのヒラメ釣りは30分前後のインターバルで流し変えとなる場合が多いが、イワシの群れに着いているヒラメを狙う現在の相模湾スタイルは魚探からイワシの反応が消えれば「ハイ上げて！」とアナウンスがある。

ソナーでイワシの反応を追い、船下に反応が入ってくるのを見計らって「ハイやって！」と、まるでカツオ、キハダ釣りのように短いインターバルでの打ち返しを繰り返す。

したがって投入直後にヒットすることが多く、一投一投に集中できるので、飽きずに釣りに打ち込むことができる。

ヒラメが着いているベイト反応とあって、情報を聞きつけた僚船も続々集結するが、どの船も大勢の釣り客でにぎわっており、改めてこの釣りの人気ぶり……いや、沸騰ぶりがうかがえる。

8時ごろからはさらにアタリが活発になり、左舷トモ側の岩本さん、松井さんの竿が入り、右舷では大ドモの上羽さんも1キロ級をゲット。すると今度は右舷ミヨシの坂口さんがキロ弱サイズながらも2枚立て続けにヒットさせる。0.6～1キロクラスが主体とはいえやっぱりヒラメ、釣り上げた方はだれもが会心の笑顔。まだ型を見られていない人たちもアタリはあったようで甘噛み、スッポ抜けなどで苦笑い。

私はといえば右に左に、前へ後ろへカメラを抱えて駆けずり回り息が上がるほどだが、取材者としてうれしい釣況だ。

ゲストも多彩で上々の一日

しばし中だるみの時間帯もあったが、11時近くになったところで電車釣行の吉田さんが0.9キロをゲットした。

これを皮切りに再びアタリが出始め、先の田中さんが軟調竿をギュンギュンしならせて2枚目の1.3キロをゲット。「根絡みをやってみるよ」とのアナウンスの後、右舷3番の早津さんの竿が大きく突っ込んだ。

根に潜られて万事休すと思われたが、しばしの我慢比べの末、うまいこと魚が出てきた。歓声とともにタモ取りされたのは値千金1.7キロサイズのオオモンハタ。

「いやぁ、ホントうれしいッス!!」

早津さんのオオモンハタを撮っているとファインダーの向こうに竿を曲げる吉田さんの姿が。2枚目となるヒラメは当日船中最大、肉厚の1.5キロ級だった。

残り時間もあとわずか。ここで竿を曲げたのは左舷胴の間の方。オマツリしながら1キロ強サイズがタモ取りされたが、ハリスをほどいて見ると違うハリ。お隣の紅一点、大高さんのハリに掛かっていたことが判明。

大高さんは、朝一のアタリはスッポ抜けちゃったけど、しっかり食わせた2回目のアタリは1.1キロサイズ。おめでとうございます！

13時半の沖揚がりで釣果は0.4～1.5キロを一人0～2枚。4名の方が2枚をゲットした。

ゲスト魚はオオモンハタ、ホウボウ、カサゴなど。人数が多かったので全員に配当とはいかなかったが、16人で14枚の釣果は上々といえよう。

萬司郎丸ではカツオ、キハダが開幕する7月一杯までライトヒラメ五目を受け付ける予定とのこと。レンタルタックル、仕掛けも完備しているのでクーラーだけのお気軽釣行もOKだ。

知っ得! Tips and Tricks

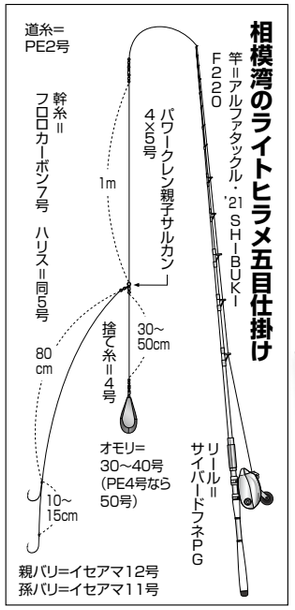
落とし込みサビキ釣りもOK

現在回遊しているイワシはカタクチイワシ。コマセを使わずともサビキ仕掛けにバリバリ掛かってくるので、「落とし込みサビキ」で狙ってみるのも面白い。釣り方は海面下2～3メートルからサミングしながら仕掛けを下ろしていき、イワシが掛かったら10秒ほど追い食いさせた後、底まで落とし込むだけ。カタクチイワシなので食い込みが早く、アタリもダイレクトに伝わってくる。

◀落とし込みサビキはライトタックルに合わせ、全長2メートル前後、ハリ数4～5本のショートタイプがおすすめ

●しいな　よしのり／夏日陽気に半袖姿になったはいいけど日焼け対策を忘れてしまい、顔も腕も真っ赤っか。これからの季節、水分補給も忘れずにね。

相模湾のライトヒラメ五目仕掛け



•Tackle Guide

ハリスは5号が標準だが、イワシへの負担を少しでも軽減させるため4号に落としている人も多い。孫バリもイワシへの負担が少ないシングルタイプが船長のおすすめだ。また、当日は捨て糸の長さが10～30センチと短めの人にアタリが多く見られた。

▼1.7キロのオオモンハタも上がった

▲手軽なライトヒラメ五目はヒラメ入門にもおすすめ

◉船宿information

相模湾湘南片瀬港
萬司郎丸
☎0466・23・8309
（詳細は巻末の情報欄参照）

根里 洋平船長

▶料金＝ライトヒラメ五目乗合一人1万2000円（エサ、氷付き）
▶備考＝予約乗合。6時までに集合。別船はマダイ、ライト五目、マダコへも出船